報道資料

脱炭素型地域社会（CO2 排出実質ゼロ社会）の構築と気候変動への適応に向けて

京丹後市は「2050 年ゼロ・カーボンシティ」を宣言しました

令和 2 年 12 月 14 日
京 丹 後 市 役 所

近年、地球温暖化が原因と考えられる気候変動がもたらす影響が世界中で観測され、様々な影響リスクが現在及び将来にわたって懸念されていることに鑑み、京丹後市は国際社会の一員として、地球的規模の環境保全について地域から取り組むとともに、本市のまちづくり基本条例で掲げる「美しいふるさとの自然環境を守り次代に継承するまちづくり」を目指し、未来を生きる京丹後と世界の子ども達のためにも、2050 年までに本市の二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロ・カーボンシティ」の実現へ向けて取り組むことを、本日開催の京丹後市地球温暖化対策推進本部会議で市長が宣言しました。

記

1．宣言内容
別紙のとおり

2．「ゼロ・カーボンシティ」の実現に向けた主な取組み
（1）SDGs 貢献型資源循環再生化事業の調査・検討を行い、推進に努めます。
（2）第 3 期京丹後市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の長期目標として「2050 年二酸化炭素排出実質ゼロ」を設定し、市役所の事務事業における率先垂範を市民や事業者に示します。
（3）現在、国の方で見直し作業が進められている「地球温暖化対策計画」及び本市の 2050 年ゼロ・カーボンシティ宣言との整合を図るため、今後、本市地球温暖化対策実行計画の区域施策編及び事務事業編における削減目標や取組内容等を見直します。

3．問合せ先
市民環境部生活環境課　TEL0772－69－0240

京丹後市『2050 年 ゼロ・カーボンシティ宣言』

～脱炭素型地域社会（CO2 排出実質ゼロ社会）の構築と気候変動への適応に向けて～

京丹後市の海岸線は、山陰海岸国立公園や丹後天橋立大江山国定公園、国の天然記念物及び名勝に指定され、また、丹後半島の脊梁山地は市内を縦断する幾多の清流の源となるなど、豊かで美しい自然環境を形成し、育んでいます。

この自然環境に暮らす私たちにあっては、恵み豊かな環境を享受する権利を有するとともに、誇るべき財産として保全し、将来世代に引き継ぐ責務を有しており、一人ひとりが環境の有限性を深く認識し、環境に接する全ての者の参加と協働によって私たちの行動及び活動全般を環境負荷の少ないものに改めていくことが求められています。

近年、地球温暖化が原因と考えられる気候変動がもたらす極端な気象現象が世界中で観測され、各地で猛暑、干ばつ、集中豪雨や大型の台風等による甚大な自然災害が多発し、農業や水産業、自然生態系にも影響を与えるなど、地球上の生命を脅かしています。このことは、もはや「気候変動」のみに留まらず、私たち人類や全ての生物の生存基盤を揺るがす「気候危機」であるとも言われています。

こうした状況を踏まえ 2015 年に合意された「パリ協定」では、「産業革命前からの地球の平均気温上昇を 2 度未満に保つとともに、1.5 度以下に抑える努力を追求する」ことが国際的に広く共有されました。また、2018 年公表の IPCC（気候変動に関する政府間パネル）特別報告書では、「気温上昇を 2 度よりリスクの低い 1.5 度に抑えるためには、2050 年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることが必要」とされています。

京丹後市は国際社会の一員として、地球的規模の環境保全について地域から積極的に取り組み、また、本市のまちづくり基本条例で掲げる「美しいふるさとの自然環境を守り次代に継承するまちづくり」を目指し、未来を生きる京丹後と世界の子ども達のためにも、2050 年までに本市の二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロ・カーボンシティ」の実現へ向けて取り組むことをここに宣言し、その達成に向けて、SDGs（持続可能な開発目標）とも協調した脱炭素型地域社会の構築と気候変動への適応の取組を一層推進してまいります。

令和 2 年 12 月 14 日

京丹後市長　中　山　　泰